第22回福山駅前デザイン会議

2025年8月27日（水） 14:00～16:00
コワーキングスペースtovio
（エフピコRiM 1階 iti SETOUCHI内）

agenda 01　福山駅周辺における各エリア間及び周辺地域とのつなぎ方



- 福山駅周辺と周辺地域をつなぐため、めざすべき方向性は、「市域全体の一体的で持続可能な発展」である。

- 今後、人口は確実に減少するが、人が動き回ることでにぎわいを維持できる。関係人口・交流人口を意識し、周遊や産業観光などの仕組みで移動を促すことが必要である。

- つながりを作るには、「追いかけさせる」ことが重要である。公共空間をきちっと作るなど、つながりたいと思われる駅周辺にし、自分たち自身が魅力的だと思わない限り、誰も追いかけてはくれない。

- 市境を意識して生活している人はほとんどおらず、つながる相手は市内に限らず市外も対象とすべきである。その分け方は距離ではなく移動時間で考え、日常のつながりは１５分以内、週末のイベントは６０分が目安と考えている。

- つながってもらうには組織のあり方が大事で、関わりを持ちたいと来てくれた人を「絶対に断らない」、まず受け入れることが欠かせない。その人が何かを始める際に後押しする姿勢が、相手の信頼を生み、次のつながりへとつながる。

- つなぐ順序を整理すると、まず「行きたいと思える魅力をつくること」、次に「その魅力を伝えること」、最後に「公共空間を整備すること」になる。
  福山駅周辺の現状として、他のまちと比べても公共空間が弱い。それぞれの拠点は公共空間でつながっているため、公共空間のあり方を整理する必要がある。

- 公共交通に加えて、サイクリングロードでも地域間がつながる可能性がある。

- 福山駅周辺を拠点に、周辺地域の資源を活かしたローカルエコノミーの経済活動を促進し、実践的な取組を通じて地域とのつながりを強化することが重要である。

- 周辺地域とのつながりを強化するためには、具体的な仕組みや仕掛け、戦略や戦術を検討する必要がある。例えば、共通イベントカレンダーのような、お互いの活動を情報共有できる仕掛けが考えられる。

- NEWCASPAでは、周辺地域のデニムや鉄鋼のものづくりメーカーとつながった事例がある。福山には多くのものづくりメーカーがあるため、福山駅周辺と周辺地域の新たなつながりが期待できる。

（ウラ面へつづく）

意見交換（つづき）

- 福山駅周辺の連携を強化するためには、広島市の事例を参考に、エリア内で複数のイベントを同時開催し、「新しいまちの姿」を描くストーリーやキーワードを作ることが重要である。

- 地形を理解すると、福山駅周辺や周辺地域全体の特性が見えてくる。地形とまちの関係をPRすることで、福山市外に住む人に対し、それぞれの地域の魅力が伝わりやすくなる。

- 福山城築城400年のときは、市全体を一つのストーリーでつなぐことで、地域住民がつながりを意識することができた。それと同じように、福山駅周辺と周辺地域をストーリーでつなぐことができれば、市域全体の持続可能な発展につながる。

- ウォーカブルエリアのばらの景観が、多くの訪問客を惹きつけ世界バラ会議で高く評価された。福山駅周辺は、世界から人を集める求心力のあるエリアになっている。

- 福山駅周辺だけでなく、周辺地域でも住民主体でばらの植栽活動が行われている。ばらが多様なまちのプレイヤーが集うコミュニティ装置となり、拠点をつないだり、まちのプレイヤー発掘の役割を担っている。

- 中心市街地ネットワークのように、現場のプレイヤーが意見を出せる場を強化してはどうか。人のつながりが重要であり、情報共有だけでなく「発言できる場」が地域を動かす。

- 超高齢化・超少子化が進む中で、若い世代が住みたくなるまちづくりが必要である。若者が自由に集まり、人と知り合い、楽しめる場所を整備し、福山を持続可能な都市にすることが求められる。駅前広場を活用した若者や子育て世代が移住・定住したいと思える魅力的な環境を整備することも重要である。

agenda 02 エフピコRiMフロア活用の方向性について

2階の活用方針(案)

魅力的な働き方や先進的な取組が生み出される拠点

- 2階の活用方針案において、「魅力的な働き方」と「先進的な取組」と整理しているが、“企業間交流による”との文言を加えると、方針が明確になる。

- 希望する運営事業者像には、エリア全体や周辺地域への波及効果を考えると「1階との連携による相乗効果を創出できる運営事業者」という観点も必要である。

- 1階と2階の契約期間がずれると、効果的な連携が難しくなるため揃えるべきである。1階の契約期間を延長することで、建物全体の契約期間を明確にし、入居企業に安心感を与え、良い交流が生まれやすくなる。

- 運営事業者が設計に関与せずに施設の運営を任されることは効果的ではない。他都市では、再生のマスタープランを運営事業者に任せたことで成功した事例もある。A工事の段階から運営事業者の意見を取り入れた体制づくりが必要である。

  ➡ 運営事業者と設計を調整しつつ進める。1階と同様に事業評価協議会を設け、伴走型で課題解決に取り組む。

- 1階では「人と人、人とまちのつながり」「福山の未来を育てる」というコンセプトを重視して運営事業者を選定し、定期的に成果・課題を共有する場も設けてきた。2階でも同様の枠組みを継続し、事業評価の仕組みを設ける必要がある。